九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

唾液を用いたドライマウスの新しい診断方法とその有用性に関する研究

大山，恵子

https://doi.org/10.15017/1441137

出版情報：九州大学，2013，博士（歯学），課程博士
バージョン：
権利関係：全文ファイル公表済

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

垂液を用いたドライマウスの新しい診断方法およびその有用性に関する研究

本研究は 1) ドライマウス患者の臨床所見の分析、2) 唾液を検体とした非侵襲性の検査による病態解析により、ドライマウスの診断法を確立することを目的として行われた。

1．ドライマウス患者の臨床病態解析

日本口腔内科学会の「口腔乾燥症（ドライマウス）の分類案」に基づき、シェーグレン(SS)患者、放射線性ドライマウス（RD）患者、神経性・薬物性ドライマウス（DND）患者、健常者を対象とした。臨床像の分析方法は、性差、病悩期間、安静時唾液分泌量（UWS)、刺激時唾液分泌量 (SWS)、visual analog scale (VAS) による自覚症状について、健常者と比較検討を行った。その結果、SS 患者と DND 患者では、女性が男性と比較して有意に多かった。平均病脳期間は、各群において有意差は認めなかった。平均唾液分泌量検査では、SS 患者は UWS と SWS ともに基準値以下であり、DND では UWS のみ基準値以下、RD では、UWS、SWS ともに有意に減少していた。VAS による自覚症状の評価では、口腔乾燥感はいずれの患者群とも健常者と比較して有意に高値であったが、眼乾燥感は SS 患者のみ有意に高値であった。

2．ドライマウス患者の唾液中サイトカインとストレス関連物質の解析

ドライマウスの発症および SS の病態解析を目的として、唾液腺におけるサイトカインおよびストレス関連物質について検索を行った。唾液中のサイトカインの解析にはサイトメトリックビーズアレイを用いたフローサイトメトリー法を、唾液中ストレス関連物質である分泌型 IgA（SIgA）およびクロモグラニン A（CgA）の解析には ELISA 法を用いた。唾液中のサイトカイン濃度は、SS 患者では Th1、Th2 タイプの全てのサイトカインが健常者と比較して有意に高かった。DND 患者では、IL-10 が健常者と比較して有意に低値であった。RD 患者では、いずれのサイトカインも健常者と比較して有意な差がなかった。次に、唾液による SS の病態解析の検討するために、SS 患者を口唇腺組織でのリンパ球浸潤程度で軽度と重度の 2 群に分類し、唾液中サイトカインとの比較を行った。その結果、Th1 タイプが軽度症例で、Th2 タイプが重度症例で有意に高値を示した。唾液中のストレス関連物質について、SIgA はいずれの患者群も健常者と比較して有意差がなかったが、CgA は DND 患者で健常者と比較して有意に高値を示した。

以上より、臨床所見（VAS および唾液分泌量）と唾液中のサイトカインおよび CgA の検索は、ドライマウスの鑑別診断に有用であることが示唆された。また、経時的な唾液中のサイトカインの検索は、繰り返し行うことが困難な生検に代わる SS の病態進展のモニター検査にも応用できる可能性が考えられた。

本研究は、唾液腺によるドライマウスの診断法の樹立に寄与する研究で、学位論文として十分に値するものである。

博 士 学 位 論 文 審 査 結 果 の 要 旨 及 び そ の 担 当 者

(ふりがな) 氏　　名	おおやま　けいこ 大山　恵子
論文調査委員	主　査　　九州大学　　樋口　勝規　　教　授 副　査　　九州大学　　中西　　博　　教　授 副　査　　九州大学　　森　　悦秀　　教　授